

ひたちとアジア

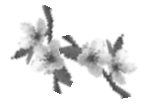
第48号

2014年(平成26年)7月

発行：ひたちとアジアの文化交流をすすめる会 広報部会



平成26年度 総会開催され事業計画決定 新体制でさらなる文化交流を



平成26年度「ひたちとアジアの文化交流をすすめる会」総会は、多くの会員が出席し日立シビックセンター5階において5月31日(土)に開催されました。

総会では前年度の事業報告と今年度の事業計画案について審議されましたが、その前に9年間の長きにわたり役員を務められてきた、森紀生会長と森秀男相談役が退かれるということで、ご挨拶がありました。このため新会長の選出となり、出席者の推薦により副会長であった小澤紀夫さんが会長に選出されました。



総会会場

副会長は、昨年度からこの会に入会された菊池和雄さんに決まりました。菊池さんは、カンボジアの子ども達に夢と希望を贈る市民の会の会員としても精力的にご活躍されています。森紀生前会長には、相談役として引き続いてさまざまなアドバイスをさせていただくことになりました。よろしくお祈いします。

昨年度の事業報告では、講演会「ブータンの人々と文化」や「カンボジアの子どもたちと今」で身近にアジアを感じ、特にカンボジアの講演会では、講師がカンボジアからご家族を連れてこられたので楽しかったという意見や、バスで出掛けたアジア文化めぐり研修ツアーでの反省材料が話題になりました。ひたち国際文化まつりでは、“屋台村のカンボジアの料理がよく売れた”

“来場者が参加できるイベントとして、世界の子どもたちと一緒に遊びたいことはなにかを書いて貼るコーナーが好評だった”

などの意見が寄せられました。

今年度の事業企画対象の国は、ミャンマーと決定し、第12回目となるひたち国際文化まつりは、会場の都合により例年より早く、メイン日は10月25日(土)と決まりました。多数の皆様

「ひたちとアジアの文化交流をすすめる会」会長就任挨拶

小澤紀夫

このたび9年間務められた森紀生会長と森秀男相談役が、諸般の事情によりどうしても退任なさるとのこと、若輩者でございますが「ひたちとアジアの文化交流をすすめる会」会長を仰せつかりました。5月31日に行われた総会後の茨城キリスト教大学染谷先生のお話にあった、日本と周辺諸国との相互理解の難しさと必要性に、共感いたしました。その意味で今までに増して、当会活動の必要性・重要性を強く感じております。会員の皆様と各ボランティアグループ・シビックセンター事務局・菊池副会長と協力し、引き続き意味のある国際文化交流活動を継続したいと思います。よろしくお祈いいたします。



会長 小澤紀夫氏



副会長 菊池和雄氏

講演会「東アジアの共生 日韓をめぐる文化的背景」開催

講師 染谷智幸氏 (茨城キリスト教大学教授)

5月31日(土)「ひたちとアジアの文化交流をすすめる会」総会後に、標題の講演会が開催されました。

21世紀に入ってから十数年。東アジアは激動の時代を迎えています。これからの東アジア情勢をどうみていけばよいのか。それは近現代の歴史のみでなく、広く深く、文化的歴史的背景に目を凝らすことが大切となってきます。

今回は日本と韓国に絞って、両国の文化的背景に迫り、国民性、共通性にも触れながら、今後、隣国と向き合い、どうすればよい関係を築いていけるかを考える、という内容の大変興味深い講演会が行われました。

講師の染谷先生は茨城キリスト教大学文化交流学

科教授で、主な著書には『西鶴小説論—対照的構造と「東アジア」への視界』など多数出版されています。

ひたちとアジアの文化交流をすすめる会の会員ばかりでなく日立市報にも掲載したため、多くの市民が集まりました。

日韓の問題は、現在大変複雑ですが、近々の問題なのではなく、海を間にしてもっともっと古い時代からのかかわりがあります。現代ではなく、古い時代の文化圏に立ちまわること、そして相手の文化を理解する大切さ等、示唆に富む内容でした。

また、講演会前半では、版画家川瀬巴水(1883~1957)の作品(巴水が茨城の県北を多く旅したため、描いたものが沢山ある……「水木の曇り日」など)を茨城キリスト教大学図書館で収集し始めているとのこと。いずれ展示できればとのお話がありました。

あのスティーブ・ジョブズが巴水の大ファンだとか! 公開されることが楽しみです。



講演会会場にて

退任挨拶 9年間の思い出 前会長 森 紀生



日立に来て35年、そのうち17年はサラリーマン生活、続く17年を「ひたちとアジアの文化交流をすすめる会」の会員となり、そしてその後半の3期9年間を会長として、会員・シビックセンターの皆様の温かい励ましとご協力があって、何とかつとめて来ました。ここに改めて厚く御礼を申し上げます。

毎月1回行う定例会では、各事業の進行に寄与する意見が多く、有効に活用することができました。心から感謝します。

各事業の進行に当たっては、計画・準備の段階から、担当の皆さん一人一人が前を向いて、常に笑顔を絶やさずに行動していただいたことが、一番の喜びと、思い出となって残ることでしょう。そして最も忘れられないのは、何と言っても「ひたち国際文化まつり」でした。この会の参加9団体の皆さんの、年代を問わず心をつなげて行うパフォーマンスは素晴らしく、参加者の皆さんの心をも豊かにしたことでしょう。おまつりが終わったら、即来年のおまつりの準備を始めるといふ団体もありました。そのあふれる熱意に感激したものです。

また、アジアの人達やアジア以外の国の方々との協力のもとに行った催しも多々ありました。それらが無事成功のうちに終わった時には心から感謝の念で、いっぱいでした。

国際交流という名のもとに活動する「ひたちとアジアの文化交流をすすめる会」は日立市にとっても、これからずっと続けてもっともっと大きくなって、世界平和に貢献できるようになることを願っております。

ここで知り合った日立市民・参加してくれた外国の方々とは、いつまでもいい友達として友情を築いて行っていただきたいと思います。ありがとうございました。

カンボジア通信 第3シリーズ NO.1 プノンペンの変遷

元青年海外協力隊(理数科教師)・教育開発コンサルタント 浅水 伸介

浅水伸介さんは、茨城大学卒業後、2009年から青年海外協力隊員としてカンボジアで活動、その後短期ボランティアとして赴任、現在は日本の教育開発コンサルタントとして就職し、引き続き理数科教育事業に携わっておられます。カンボジアの女性と結婚され一女の子のお父さんです。第3シリーズとなる今回からも、地についたカンボジアの生の現状や思いを紹介していただきます。

カンボジアの首都プノンペンから浅水伸介です。以前は第二の都市であるバットアンバンで理科教育系の青年海外協力隊として活動していましたが、この度、首都プノンペンにて、教育開発コンサルタントの仕事に就き、立場は変わりましたが、引き続きカンボジアの理科教育に関わっていくことになりました。今回は、私が住んでいるプノンペンの街の最新情報をレポートします。

カンボジアの首都であるプノンペンは人口 223万人の大都会です。1975年にポルポト派が首都を陥落させた後は、住民を地方に強制移住させ、首都の人口はポルポト派の兵士や幹部のみ数十人しかいないゴーストタウンと化してしまっていた時期もありましたが、内戦が終わってから人々は戻ってきて、現在は目覚ましい発展を遂げています。

最近のカフェの开店ラッシュで、プノンペン中心部はお洒落で涼しくゆっくりできる先進国と変わらない店がたくさんできています。日本のように狭い空間ではなく、大きなソファで横になれる所もあり、私もカフェに入って仕事をする事が増えました。しかし、このようなカフェは外国人利用者が中心で、カンボジア人からすればまだまだ高嶺の花である事に変わりありません。カフェのオープンラッシュと共に、閉店を余儀なくされる店も多く、数か月単位でどんどん入れ替わる様は、さすが元気なプノンペンならでは。家の近くに新しいカフェができると、今まで行っていたカフェに行かなくなってしまうのです。あくまでも私の考えですが、外国人客を頼るのではなく、地元の人達や学生達が集まる学校通りに、カンボ

ジア人の好きな菓子やつまみを置いて、まずは地元民に愛されるようなカフェを作った方がいいと思うのですが。何も外国かぶれする事はない、のではないのでしょうか。

また、カフェに限らず、プノンペンではいろいろな国の料理を楽しむこともできます。日本のすしやラーメン、牛丼チェーンも進出してきて、カンボジアのこれからの発展に乗りようとしてくる企業や、若い起業家たちも多く見られます。特に夜のトンレサップ川を眺めながらの川沿いレス

トランは、いつも多くの人で賑わっています。夜風に吹かれながらビールで乾杯。一日の疲れも一気に吹き飛びます。さらに6月30日には大型の「イオンモールプノンペン」がオープンします。私の

家からも歩いて行ける距離にあり、新たに週末を楽しめる場所ができ喜んでいるところです。日本企業が入ってくれるということで、カンボジアでも多くの注目を浴び期待されています。プノンペンに住む日本人も、今後ますます増えることが予想されています。来年度には日本人学校も開校することになっており、プノンペンの街はどんどん変わっていくことでしょう。もはや、ポルポトの暗いイメージはだいぶ無くなってきています(もちろん忘れてはなりません)。しかし、経済発展に見合った教育がなされていないのが、カンボジアのこれからの大きな課題でしょう。

今後も元気で活力に満ちたカンボジアの教育に関わっていける事を嬉しく思っています。

皆様、是非、プノンペンにお越しく下さい。

2014年6月記



カンボジアには様々な日本語フリーペーパーがあります

情報コーナー

ひたち納涼寄席

と き 平成26年8月20日(水)
 開場 18:00 開演 18:30
 ところ 日立シビックセンター
 多用途ホール
 出演 三遊亭好楽、初音家左吉、ロケット団 他
 木戸銭 3,000円(全席指定)《好評発売中》



予告 第12回ひたち国際文化まつり

世界各国のいろいろな文化に触れてみませんか。
 と き 平成26年10月25日(土) 10:00~(予定)
 ところ 日立シビックセンター
 ギャラリー、会議室、多用途ホール
 入場料 無料(コーナーにより参加費が必要な場合があります。)

関連団体のイベント・活動を紹介するコーナー (2014年8月~12月)

主催	タイトル	日時	場所	問い合わせ先
日立市 日中友好協会	中国人留学生学友会との交流会	7月末	未定	090-2531-5444(白土)
	留学生歓迎バーベキュー大会	10月	会瀬青少年の家	
	日中間の現代・歴史勉強会	11月	未定	
フレンドリー あんず	日本語教室	毎週火曜日 19:00 金曜日 14:00	(火)女性センター (金)教育プラザ	0294-52-5690(反町) 0294-42-8176(金岡)
	外国人のための生け花クラブ	第2又は第3金曜日 10:00	教育プラザ	0294-21-4150(福地)
	食文化交流ET会	8月他 隔月に1回	女性センター等	0294-35-1151(今野)
	フレンドリーあんず夏祭り あんずの年忘れ会	7月13日(日) 10:00 12月14日(日) 12:00	会瀬青少年センター 会瀬交流センター	0294-21-4150(福地)
国際交流 ボランティアネット ワークさくら	日本語教室	毎週木曜日 10:00 土曜日 10:00	(木)教育プラザ (土)女性センター	0294-21-5849(横田)
	文化交流会—夏の風物詩を楽しむ	7月5日(土)	女性センター	
	さくらバザー「百年塾フェスタ」で	10月5日(日)	パティオモール	
	外国人の日本語による意見発表会 「ひたち国際文化まつり」共催	10月25日(土)	日立シビックセンター 多用途ホール	
日立ユネスコ 協会	世界の料理教室	9月	会瀬交流センター	0294-35-6034(藤原)
	絵で伝えよう!私の町のたからもの 絵画展「ひたち国際文化まつり」共催 同時開催「私の国のたからもの絵画展」	10月21日(火)~26日(日) 26日(日)表彰式	日立シビックセンター ギャラリー	
	日本食文化体験	11月	会瀬交流センター	
	伝承味噌造り	12月13日(土)	川尻町蛭田講師宅	
ガールスカウト 10団	夏のキャンプ	7月25日(金)~27日(日)	常陸太田市西山研修所	0294-23-3156(小貴)
	キッズくらぶ	8月23日(土)	大みかまつり会場	
	ユニセフ募金活動	9月13日(土)	よかっぺまつり会場	
	40周年記念行事(仮) 万春園訪問	11月8・9日(土・日) 12月上旬	未定 万春園	
カンボジア支援会	ふれあいの旅	11月12日(水)~18日(火)	カンボジア	090-4177-5393(菊地)

活動記録

(2014.4.1~7.31)

- ◆活動推進部会 (メンバー定例会)
4/17、6/21、7/9
- ◆広報部会 6/6、6/21、7/9
- ◆ひたち国際文化まつり実行委員会
7/16

編集後記

11年前、当会事務局となる財団に就職してから6年目に、この会を担当する部署に配属となりました。他のスタッフと共に多くの市民の方々の協力を力に、楽しく様々な事業に関わってきました。昨年退職しましたが、スタッフではなく市民の立場で、全国でも類を見ないというこの会を、更に多くの市民に知ってもらいたいと願い、微力ながら新たな気持ちで、広報委員として自分にできることを模索していきたくと思っています。(松本記)

広報誌「ひたちとアジア」は、日立シビックセンターホームページでもご覧になれます。 <http://www.civic.jp>

連絡・問い合わせ・感想・入会希望等は、日立シビックセンター内「ひたちとアジアの文化交流をすすめる会」事務局まで

TEL 0294(24)7711 FAX 0294(24)7970 E-Mail salon@civic.jp